

希望の道標

vol.34

取材・文／山下久猛
撮影／守谷美峰

僕の夢は世界中に壁画を残すこと。そのために、1年に1度は海外で壁画を描くプロジェクトに取り組んでいます。これまでケニアの小学校や東日本大震災で被災した街で壁画を描いてきました。現地の子どもたちと一緒に絵を描くことで、彼らを元気づけ、生きる希望をもってもらいたい。絵にはその力があると信じています。

将来、絵を描くことで生きていきたいと最初に、おぼろげながらも思ったのは高校受験のころです。当時はサッカーに熱中していたのですが、僕よりうまい人は山のようにいて、とても自分にはプロになれるような才能はない。勉強も好きじゃなかった。となると偏差値で入れそうな高校に入るしかない。そうなってしまうと、大学も会社も同じような流れで何となく割り振られるように入ることになって、すぐく不自由で中途半端な、ありきたりの人生になりそうなのが怖くなったんです。

そんな人生は嫌だったので、今のうちに本当に好きなものを見つけて全力で打ち込みたいと思いました。自分がやりたいことは何なのか真剣に考えたところ、小さいころから絵を描くことが好きだったし、小学生のころは賞を取ったこともあったので、県内の高校に1つだけあった芸術コースに入学したんです。

高校時代の前半はあまり楽しくなかったですね。級友もこれまでの体育会系とは真逆の文化系で、しかも女子が9割という環境だったこともあり、美術の勉強よりもバンドや悪い遊びの方に熱中してました。でも、その繋がりや退学寸前の不祥事を起こしたことで、目が覚めました。絵を描きたくてこの高校に来たのに一体俺は何をしているんだと。そこから本気で絵描きになろうと決意し、絵の勉強に打ち込んだことで、今の僕があるんです。この一件で、自分の人生は自分で決められるんだと痛感し、その後の考え方がかなり変わりました。重要なのは自分の意志です。勉強含め、学校では基本的に先生から与えられたことをやっているのになかなか気づけない。それを自分の意志でやるのか、やらされていると思ってるのかでは結果が全然違ってくると思います。大学に入ってから同じで、何となく講義を受けて

自分で考えて、自分で決めることが大事だと思います。

トータルペインター／ミヤザキケンスケ

単位だけ取っても、社会に出ようとするときに自分は一体何かしたいんだっけ？ と頭を抱えることになりました。だから高校生の時に何となくでもいいので、「このためにこの勉強をしている」という意志をもって取り組めば、確実に血肉となり、将来に生きてくると思うのです。

僕は今、好きなことを仕事にして生活できているので幸せですが、すべての人に勧めるつもりはありません。100人いれば100通りの価値観があるし、向き・不向きもあるので、やりたいこと・好きなことは趣味として楽しむというのも1つの生き方です。だから今やりたいことがなくても不安になる必要は全くありません。大事なことは、将来のことや生き方を周りに決められるんじゃないかと、自問自答を繰り返して自分で決めるということ。そうすればどうなったって後悔はしないし、自分らしい、自分だけの人生を生きることができると思うんです。

Kensuke Miyazaki
みやざき・けんすけ

1978年佐賀県生まれ。佐賀県立佐賀北高等学校芸術コース卒、筑波大学芸術専門学群卒、筑波大学修士課程芸術研究科を修了後、イギリス・ロンドンへ渡りアート制作を開始。帰国後、東京を拠点に活動。NHK「熱中時間」にてライブペインターとして出演。ケニアのスラム街の壁画プロジェクト、東北支援プロジェクトなど、「現地の人々と共同で作品を制作する」活動スタイルで注目を集める。現在は壁画、ライブペインティング、ワークショップなど多岐にわたる活動を行うほか、世界中で壁画を残す「Over The Wall」プロジェクトに取り組んでいる。

●公式Webサイト「ミヤザキングダム」→<http://miyazakingdom.com/>